

2020年

二葉幼稚園

園のたより

11月の聖句

わたしが あなたがたをあいしたように、たがいに あいしあいなさい
ヨハネ15章12節

11月のさんびか

ちいさいひつじが

こどもさんびか改訂版55

感じる

今年度は、誕生日感謝礼拝も、月に一度の合同礼拝も、密を避けるために各クラス毎に実施しています。8月は年長さんと、9月は年中さんと、10月は初めて年少さんと一緒に礼拝堂で礼拝を守りました。入園式以来です。今月の賛美歌「ちいさいひつじが」に伴い、「迷子の羊」のお話をしました。お話の内容は賛美歌の歌詞をご覧ください。

年少さんも一人一人、迷子の羊に自己を投影同一視したり、羊飼いに思いを重ねたり、肩寄せ合い迷子の羊を心配する99匹の羊になったり、お話の節々に目や表情が変わるほど静かに真剣に聴き入っていました。子ども達と共感できた喜びから、礼拝を終えて、清々しく幸せな気持ちになりました。降園時、門で子ども達を送り出すと年少の・・・ちゃん「先生、今日の礼拝楽しかった！」とわざわざ伝えにきました。❖くんはお迎えに来られたお母さんに礼拝のお話をしていたようで「羊が落ちた話だったんですか？」とお母さん。「お話の中で迷子の羊さんが崖から落ちちゃってね・・・」と応えるとお母さんは「(話が)あってる！」と驚き、❖くんはいかにも「ね？本当だったでしょ？」と言わんばかりでした！

どんな場面が心に残ったかはそれぞれでしょう。羊飼いと約束を忘れ、一匹(人)で遊びに行き迷子になった羊は、仲間の羊達のいる所へ戻る途中に、崖から落ちてしまいました……。

寂しさと後悔と心細さに震える迷子の羊(僕や私)を一生懸命探し回り、助け出し、優しく抱きしめたのは、子ども達にとってお父さん、お母さんかもしれないし、おじいちゃん、おばあちゃんかもしれない。兄弟や先生達かもしれません。そしてイエスさまや神さまだったかもしれません。

羊飼いに抱きしめられた場面で安堵した表情を浮かべる子ども達。いよいよクライマックス！とその時、無情にも窓の外から踏切の音・・・。「あ！カンカン鳴ってる！」と電車好きの◇君。一瞬現実世界にハッとしてざわっとする子ども達・・・でも！です。◇君も皆も、またぐ〜っとお話の世界へ自力で戻ってきたのです。年少さんの半年の歩み、正にその尊さを感じた瞬間でした。

さて、数年前、私は「祈り～サムシンググレートとの対話～」(白鳥哲監督)という映画を観ました。皆さんもお聞きになったことがあるでしょうか。「祈りの研究」でアメリカの西海岸のとある病院に入院する心臓病患者さん達のことを、出会ったこともない東海岸の人達が具体的に祈っていました。無作為に抽出された祈られていたグループの患者さん達は、祈られていないグループの患者さん達に比べ、人工呼吸器、抗生物質、透析の使用率が激減したというのです。印象的でした。

私達は感じる力を持っています。他者を思う、祈る心も持っています。愛は決してきれい事ではなく、時に激しい痛みや苦しみ、試練を伴うことも私達は知っています。その上で聖書は語りかけます。「私があなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい」と。互いの存在を感じ、祈るような思いで互いに愛し、慈しみあい、人知れず祈る誰かの祈りをも感じつつ、感謝の思いで過ごしたいです。

先日、・・・ちゃんとお母さんのエピソードをお聞きました。ある日「・・・ちゃんは・・・ちゃんが大好き。ママはママのことが好き？」「う～ん、ママはあまり好きじゃないかな」「え～？そんなこと言ってたら神さまママのどこ来てくれないよ」・・・お母さんは・・・ちゃんの言葉にはっと気づかされたかと仰っていました。生かされている私達。子ども達が深く感じているように、神さまに愛されている自分自身を認め、時に労り、慈しむことも大切にしていきたいですね。【園長】